

(現地情報) 湯浅なすの産地化への取り組み

1. 現地の取り組み

湯浅なすは、これまで「金山寺みそ」の具材として湯浅町を中心に栽培されてきたが、最近では数戸の農家で栽培されるだけであった。有田の伝統野菜を守り産地化を進めるため、2011年9月に生産者や流通、加工業者、行政等が集まり「和歌山湯浅なす推進研究会」が発足した。現在、生産者は9名と少ないが栽培面積(24a、2014年)は増加傾向にある。研究会では2013年2月にプレミア和歌山「紀州伝統野菜 湯浅なす」の認定も取得して活動を広げている。

農業試験場では、「ひも誘引」による主枝4本仕立てなど誘引・整枝方法や、接ぎ木栽培用台木「トナシム」の選定といった技術成果を研究会で発表している。

2. 今後の課題

生産者の多くは、ウンシュウミカンとの複合経営を行っており、ナスの栽培面積は小さいので、生産量を増やすには、新たな生産者の確保に取り組む必要がある。また、消費者の認知度向上や調理加工方法のPRも重要である。

今後も研究会への参画と有田振興局と共同で生産者への技術指導にあたり、湯浅なすの生産振興に取り組んでいきたいと考えている。

(栽培部 東 卓弥)



農業試験場での栽培検討会

「ふれあいデーin農業試験場」

平成26年11月8日(土)に農業試験場において開催され、約700名が訪れた。主な内容は以下のとおりである。

1. 試験研究成果の紹介

農業試験場育成イチゴオリジナル品種「まりひめ」の育成経過、ダイコン黒芯症防除技術等のパネルと実物を展示した。

2. 場内案内

ハウス、ほ場を見学してもらい、実物をみながら実際の試験研究の様子を知ってもらった。

3. 農業技術相談

農家の皆様の栽培や経営に関する相談に回答した。マコモの栽培、水稻の病害虫防除、畑地雑草防除等の相談があった。

4. 家庭菜園講習会

キャベツ、タマネギの栽培方法を紹介するとともに、実際には場で苗の定植体験を行った。

5. その他のイベント

餅つき体験、小学生以下の児童を対象としたサツマイモ掘り体験や動物愛護教室を行った。

(島津 康)



展示コーナーでの成果紹介と農業相談



家庭菜園講習会での苗の定植